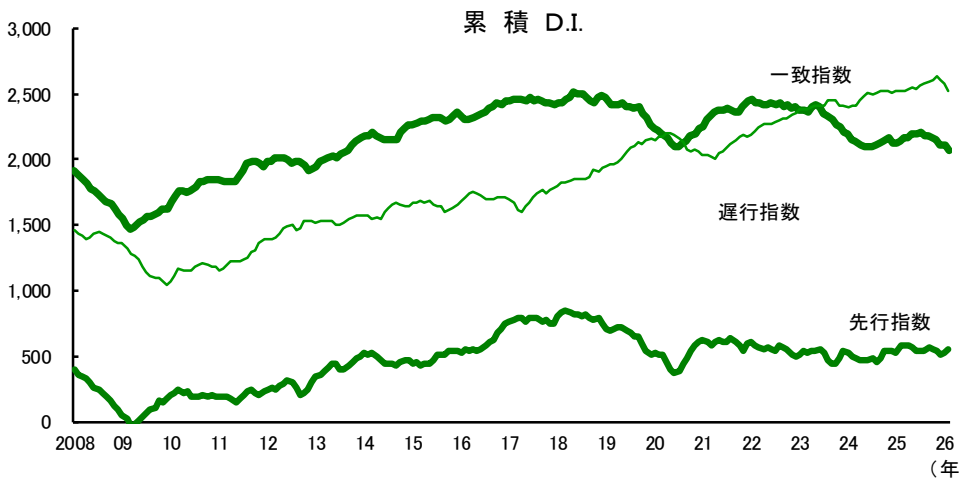


1. 景気動向指数

2026年2月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、輸入通関実績（実質）、百貨店・スーパー販売額（実質）、所定外労働時間数（製造業30人以上）の6項目がマイナスとなり、全体で14.3%と7カ月連続で50.0%を下回った（7項目のうちマイナス6）。

先行指数は、新車登録台数（乗用車）、ホテル・旅館宿泊客数、鉱工業在庫率指数（逆）、新設住宅着工戸数の4項目がプラスとなり、全体では80.0%と2カ月連続で50.0%を上回った（5項目のうちプラス4）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、資本財出荷指数、貸出約定平均金利、家計消費支出（勤労者世帯）の5項目がマイナスとなり、全体では0.0%と3カ月連続で50.0%を下回った（5項目のうちマイナス5）。



採用景気指標	
先行指数	1. 新規求人数(パート含む)
(5項目)	2. 新車登録台数(乗用車)
	3. 鉱工業在庫率指数(逆)
	4. 新設住宅着工戸数
	5. ホテル・旅館宿泊客数
	一致指数
(7項目)	2. 県内企業業況判断DI
	3. 百貨店・スーパー販売額(実質)
	4. 鉱工業生産指数
	5. 鉱工業出荷指数
	6. 輸入通関実績(実質)
	7. 所定外労働時間数(製造業30人以上)
	遅行指数
(5項目)	2. 家計消費支出(勤労者世帯)
	3. 消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)
	4. 資本財出荷指数
	5. 貸出約定平均金利

注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)  
 一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。  
 資料) 宮崎県総合政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を3カ月前の値と比較して増加したものの割合を出した。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の3つがある。一致指数が数カ月連続して50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

2月の鉱工業生産指数は、90.2で前年同月比2.9%減と前年を下回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス（同62.2%増）、化学（同10.0%増）、食料品（同5.0%増）が前年を上回り、繊維（同12.0%減）が前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

4月の公共工事請負金額は、180億3百万円で前年同月比30.9%増と4カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が同272.1%増、県が同40.6%減、市町村が同75.9%増、その他（独立行政法人等）が79.5%増となった。

② 着工建築物

3月の着工建築物は、棟数は327棟で前年同月比46.6%減、床面積は5万6,795㎡で同52.8%減となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同43.7%減、床面積が同56.4%減となり、非居住用は棟数が同57.5%減、床面積が同47.4%減となった。

### ③ 住宅着工

3月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を大幅に下回った。県内合計は311戸で前年同月比67.8%減と6カ月連続で前年を下回った。

## 4. 個人消費関連

### ① 百貨店・スーパー販売動向

3月の百貨店・スーパー販売額は、59億5,100万円で前年同月比3.0%減となった。

商品別では、衣料品は7億9,100万円で同6.1%減、飲食料品は34億400万円で同1.9%減、その他計は17億5,600万円で同3.7%減となった。

### ② 乗用車新車販売動向

1月の乗用車新車登録台数は、1,654台で前年同月比10.0%減となった。

車種別にみると、普通車は1,056台で同16.1%減、小型車は598台で同3.5%増となった。

## 5. 消費者物価指数

3月の宮崎市の消費者物価指数は、114.0で前年同月比1.8%増だった。

## 6. 企業倒産

4月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は2件（前年同月4件）で前年を下回った。負債総額は2億200万円（同7億3,500万円）で5カ月連続で前年を下回った。

## 7. 雇用情勢

3月の有効求人倍率は、前月から横ばいの1.14倍となった。

新規求人数は8,332人で前年同月比2.2%増となった。

雇用保険受給者数は、4,605人で同20.9%増となった。

## 今月のトピックス) ~ 2025年度の有効求人倍率

2025年度の宮崎県の有効求人倍率は1.20倍で前年から0.09ポイント減となった。有効求職者数が前年度比0.2%増となった一方で、有効求人数は同7.3%減となり、物価高に伴う人件費増加から求人を抑える動きが見られる。

